vol.5
2007.6

Create

高知大学総合教育センター・大学教育創造部門

CONTENTS

平成18年度
大学教育創造部門部会活動報告 2

平成19年度
大学教育創造部門部会活動計画 7

大学教育創造部門組織体制表 11

New Staff Greeting
塩崎　俊彦（総合教育センター・教授） 11

Action⑤ 12

KOCHI UNIVERSITY

2006
Action Report

平成18年度　大学教育創造部門部会活動報告

活動概要

総合教育センターが設置され、旧大学教育創造センターは大学教育創造部門へ組織的に移行した。それに伴って、旧センターの下で３部門を業務に応じて６部会に再編成し、部会長には専任教員４名の他、新たに委嘱した兼務教員２名が就き、各部会は原則として全学部から委員が選択されて、職務を遂行した。

業務が本格化する６月以降に病気休暇によって専任教員１名を欠く中、それを補いながら専任・兼務教員が奮闘し、後述の各部会報告が示すように、全体としては年度実施計画への取り組みを含め部門としての職責を果たせた１年であったといえる。来年度も、実質的に専任教員３名の体制が続くが、兼務教員との協働・連携を図りながら、より充実した活動を実現したいと考えている。

各部会の活動の詳細については、部会報告に委ねることとする。

部門会議

専任教員４名（６月以降は３名）、兼務教員２名、担当事務員２名によって、隔週ペースで定例化され、計19回開催された。部門の全体に関わる方針及び計画や予算、各部会の活動報告、各種活動の企画、実施、総括等について審議・報告が行われた。

REPORT 1

Educational program development

教育プログラム開発部会　部会長：石筒　覚

1. 既存開設授業の実施および評価

①本年度は、下記の授業を開講し、７月22日（自律創造学習Ⅰ・課題探究学習）および１月27日（自律創造学習Ⅰ・自律創造学習Ⅱ）において、成果発表会を実施した。また、授業ごとに、授業評価アンケートを行い、授業の効果等を分析した。

- 自律創造学習Ⅰ（第１・２学期開講）
- 自律創造学習Ⅱ（第２学期開講）
- 課題探究学習（第１学期開講）
- 学びを創る（第１学期開講）

②７月には、長崎大学で開講されている「教養セミナー」、徳島大学で開講されている「創成学習科目」に関して、聞き取り調査を実施した。

2. 新規授業の企画・開発

①課題探究型授業の新たな企画募集を11月から12月にかけて実施した。その結果、４件の応募があり、すべての科目（「生命現象と物理法則」、「地域協働入門」、「国際協力入門」、「英語ワークショップ」）を採択した。いずれも課題探究型の学習方法を取り入れており、少人数グループでの活動が重視されている。また、Project-based Learning 型授業の開発について、自律創造学習Ⅱを中心に行った。授業では、２つのプロジェクトチームに分かれて企画が進められ、成果発表会以後も活動は継続している。

3. 特色 GP・現代 GP に関する調査・検討

①９月以降、本年度の本学による特色 GP・現代 GP の申請に対する審査結果を検討するとともに、採択されている他大学の取り組みに対しても分析を行った。11月12･13日には、大学教育改革フォーラムに参加し、特色 GP・現代 GP に関する情報収集を行った。１月には、特色および現代 GP 獲得ワーキンググループ（GP 獲得 WG）を設置し、平成19年度申請に向けた準備作業を開始し、２月23・28日には、特色および現代 GP に関する説明会に参加した。

4. その他

・「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」について、NPO法人黒潮実感センターの申請が採択され、共通教育科目である「土佐の海の環境学」を事業内容に含み、高大連携もかかわるため、教育プログラムの改良という観点から、本部会でも取り組みにかかわることになった。

・「高知大学と武蔵野大学との間における学生交流、学生支援及び教育連携に関する協定書」に関して、８月から９月にかけて、Project-based Learning を軸とした地域資源の商品開発企画の取り組みを行った。

REPORT 2

S･O･S Support

S･O･S 支援部会　部会長：辻田　宏

1. 活動概要

18年度からの学生の申請に基づく多種多様な学生によるピアサポート活動を S･O･S（Student's Organization Self-help and Official Support）として幅広く認定し、その支援を行うことになった。このことを受けて、組織体制の再編を実施し、また教員の関わり方も含めてそれを支援する体制についても変更を行うこととなり、S･O･S 支援部会が新設された。

S･O･S 支援部会の主な業務は、学生相互支援企画（案）の募集、審査、採択、それに基づく S･O･S 認定証の交付である。直接の学生支援は、S･O･S 支援教員（プロジェクトチーム支援教員）が行った。

日程	部会等	活動内容
06年		
5月	S･O･S支援部会	学生相互支援企画の募集・審査・採択
7月	S･O･S支援部会	活動計画の策定・承認
8月	S･O･S支援部会 リーダー会議	学生相互支援企画の募集・審査・採択 新規採択企画のファシリテート
10月	学生説明会 S･O･S支援部会	新S･O･Sに関する学生への説明会 学生相互支援企画の追加募集・採択
11月	S･O･Sスタッフ申請	「チーム☆ぽうしぱん」 「六人漆脚」
12月	S･O･S支援部会 プレゼンフェスタ 認定証の交付 S･O･Sスタッフ申請	学生相互支援企画の追加募集・採択 準備開始 「チーム☆ぽうしぱん」「六人漆脚」 「Hand to hand」
07年		
1月	認定証の交付	「Hand to hand」
3月	プレゼンフェスタ 2007 S･O･S支援部会	高知市帯屋町公園に開催 S･O･S部会活動報告書の作成 S･O･S活動報告書の作成依頼

REPORT 3

Coordinated education

高大連携教育部会　部会長：上田健作

1. 高大連携教育プログラム開発授業

1）高知県大方高等学校との連携授業の開発・実施

大方高等学校で総合的な学習の時間に取り組む「アントレプレナーシップ・プログラム」における１～３年次のプログラム・教材を連携して開発を行った。

2）高知丸の内高等学校との連携授業の開発・実施

「学びを創る」及び「自律創造学習Ⅰ」の実施により、高大連携の効果を検証し、プログラム改善を図った。

2. 高校生プレゼンフェスタ 2007 の開催

昨年に引き続き、高知県教育委員会との共催で『伝えたいことがあるんだ ～魅せたい、聞かせたい、私たちの可能性～』をテーマに、高校生プレゼンフェスタ2007を平成 19 年２月 17 日(土)、高知大学において開催した。

昨年度の模様が新聞報道等で大きく取り上げられたり、大学生スタッフが県内高校を訪問し、高校生プレゼンフェスタの趣旨や内容を説明して参加要請を行った結果、今年は参加校が５校から 10 校に倍増し、趣向を凝らしたプレゼンテーションが行われた。

3. 高知県高大連携教育実行委員会の開催

平成 18 年度高知県高大連携教育実行委員会が平成 19 年３月 20 日（火）に高知大学において開催された。会議では、18 年度の事業報告と評価を協議し、高校・大学双方の教員の教育力向上で、さらに協働を進めることを確認した。

REPORT 4

Education and class evaluations

教育・授業評価部会　部会長：立川　明

1. 各種アンケートの検討について

18年度大学教育創造部門、教育・授業評価部会では年度計画に従って、以下に示したアンケートフォーマットの検討を行った。

科目配置アンケート（管理番号２）
企業への聞き取り調査項目（管理番号７）
企業による教育評価（管理番号８）
授業評価アンケート（管理番号 25）

部会で検討の結果、アンケート調査結果のフィードバックについての提案書を作成し、各学部および共通教育委員会に報告した。

2. 志望動機調査(新入生意識調査アンケート)の実施

１学期に志望動機調査を実施し、集計結果の分析を行い、各学部および高知大学入試企画実施機構に報告した。

3. 大学生活導入教育に関するアンケート調査

昨年度に引き続き、導入教育調査のためのアンケートを実施した。集計結果を分析し、その結果を各学部にフィードバックした。

4. OJT 方式 FD の実施

自律創造学習Ⅰの授業において、OJT 方式による FDを実施し、教員１名が参加した。

5. 成績評価に関する意識調査

成績評価に関する教員の意識調査のためのアンケートフォーマットを作成し、実施についての提案を各学部に行った。

6. フィードバックに関する実態調査

フィードバックに関する教員アンケート（予備調査）について各学部に依頼し実施した。

REPORT 5

FD project and execution

FD企画・実施部会　部会長：菅野光公

1. 新任教員研修の開催

2006年９月１日（金）に人文学部第１会議室において、４学部（医学部は別途開催）から、新任教員 12 名が参加し開催した。

吉倉総合教育センター長の開会挨拶の後、松永理事（教育担当）による講話「大学をめぐる状況と教育課程」、本学客員教授の原正紀氏による講演「大学におけるキャリア教育の必要性と今後の課題」の後、グループに分かれ、アイスブレイキング（チームビルディングゲーム）を行った。引き続き、「私たちのなすべきこと」を大テーマとし、グループごとに小テーマを決めて討論を行い、報告を行った。

2. 全学 FD の開催

2006 年 12 月 6 日（水）に「本音が授業を救う～僕らの声で授業が変わる !?」と題して、全学 FD フォーラム 2006 を開催した。本年度は、学生有志 13 名と FD 企画・実施部会教員とが共同して企画し、分科会と全大会との 2 部構成で実施した。

当日は、就職説明会など各種説明会と重なり、学生の参加者が少なかったが、参加教員からは、「学生の生の声が聞けて良かった」など、概ね好評を得た。

3. 他大学視察

2007年 2 月 7 日に一橋大学で開催されたシンポジウム「教育改善のダイナミクス」に、FD 企画・実施部会長が参加し、他大学の実情について情報収集を行った。

また、2007年 3 月 26・27 日の両日、愛媛大学で実施された「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」に、総合教育センター長と FD 企画・実施部会長が出席した。講師の S. ウェストン教授からカナダ・マギル大学で実践されている FD プログラムについて紹介後、体験受講を行った。

REPORT 6

e-Learning

e-Learning 部会　部会長：立川　明

1. 電子化教材作成支援アンケートおよび講習会の実施

全学教員を対象に電子化教材作成支援に関するアンケートを実施した。そのアンケート結果を踏まえ、春休み連続セミナー「電子化教材作成支援教職員FD講習会」を企画し実施した。

2. ALC ネットアカデミー説明会の実施

ALC ネットアカデミー説明会（留学生向け日本語コース説明会も含む）を朝倉及び物部キャンパスで実施した。ALC ネットアカデミーとは、TOEIC 対応の e-Learning 教材で、実際パソコンの操作をしながら説明を行った。

3. オンライン学習支援システム説明会及び機能追加

オンライン学習支援システムの操作説明会を朝倉・岡豊・物部の各キャンパスで実施した。

また、18年度学長裁量経費を得て、システムの機能追加を行った。

4. 情報教育アンケートの実施

情報教育委員会に協力し、情報教育授業評価アンケートおよび情報教育習熟度アンケートを実施し、委員会において報告を行った。

5. シラバス改善に関する検討

電子化シラバス実施専門委員会に協力し、現状の問題改善の検討を行った。

2007 Action Plan

平成19年度　大学教育創造部門部会活動計画

活動基本方針

1. 部門内における専任・兼務教員の連携・協力の強化

平成 19 年度も専任 3 名、兼務教員 2 名を中心に業務を遂行しなければならない。これまで以上に、教員間の連携・協力を推進し、効率的かつ実行力のある活動の展開を図る。

2. 各種教育プログラムの検証と新規教育プログラムの開発

平成 18 年度に実施したものも含めて、これまで取り組んできた各種教育プログラムや授業の検証を行い、その成果や課題を広く公表する。また、新規の教育プログラムの開発に積極的に取り組み、併せて学士課程教育の改革に伴う新規の授業の開発にも協力する。

3. 高大連携教育の発展と教員の教育力の向上

既存の連携校との教育プログラム、授業の強化・充実を図ると共に、新規の連携校との連携教育の開発に取り組む。また、高大双方の教員の教育力向上のための具体的施策を企画し、実行する。

4. 学生との協働に基づく各種取り組みの充実

教育・授業評価（アンケート）、全学 FD フォーラム、プレゼンフェスタ等、学生との協働を必要とする各種取り組みにおいて、さらにその協働の質や量を充実し、それらを活性化し実りあるものにしていく。

5. 学生の自律的能力の育成のための各種取り組みの充実

本部門が実施・開発している授業、学生の自主的な S・O・S 活動、前記 4. の取り組みは、ひとことで言えば、学生の自律的能力の育成を目指した包括的な取り組みであると言える。社会協働教育委員会とも連携しながら、各種取り組みにおける同能力の獲得の状況や今後の課題を明らかにし、同能力の育成という観点から各種取り組みの見直しや充実を図る。

6. 教育・授業評価及び FD を実質的な改善に結びつけるための試行的取り組みの実施

教育・授業評価及び FD の形骸化の解決が、喫緊の課題となっている。その問題の核心は、一連の評価や FD が教員の改善活動及び教育システムや授業の改善に結びついていないという点にある。この問題を解決するためには、実質的な改善（活動）に向かうための一歩踏み込んだ施策が必要である。FD 企画・実施部会及び教育・授業評価部会が中心となり、実質的な改善に向けて部門として一歩踏み込んだ取り組みを試行的に実施する必要がある。

7. e-Learning の発展のための主体的・客体的環境条件の整備

昨年度に引き続き、e-Learning の全学的発展のための主体的・客体的環境条件の整備を行う。客体的環境条件については、学長裁量経費を含めて全学的な対応を待つしかないが、教員の主体的条件の整備については、今年度も講習会を開催するなどして推進していく。

PLAN 1

Educational program development

教育プログラム開発部会　部会長：石筒　覚

平成19年度の活動は、既開設授業の実施および評価、新規教育プログラムの企画・開発・運営・支援、特色 GP・現代 GP に関する調査・検討が中心である。

日　程	4月～2月	4月～3月	10月～3月	4月～3月
事業項目	既開設授業の実施および評価	新規授業の企画・開発・運営・支援	特色GP・現代GPに関する調査・検討	その他
具体的な活動内容	・第1学期開講授業： 自律創造学習Ⅰ、 課題探究学習、学びを創る ・第2学期開講授業： 自律創造学習Ⅰ、自律創造学習Ⅱ ・自律創造学習および課題探究学習の成果発表会（7月と2月） ・既開設授業の評価・改善	・新しい課題探究型授業の開発・奨励 ・Problem-based Learning 型授業の支援 ・Project-based Learning 型授業の開発・奨励 ・第1学期の課題探究型授業支援： 生命現象と物理法則、地域協働入門、国際協力入門、土佐の海の環境学、平和と軍縮 ・第2学期の課題探究型授業支援： 英語ワークショップ	・特色ＧＰ・現代ＧＰに関する学内調査 ・平成20年度申請に向けたWGの設置	・「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」に関する取り組み整備

PLAN 2

S・O・S Support

S・O・S 支援部会　部会長：辻田　宏

- 学生による多種多様なピア・サポート活動の発掘（募集）と拡大
- 相互支援活動組織である各プロジェクトチームの支援の充実
- 新しい S・O・S 活動及び S・O・S 支援活動システムの定着
- 新しい S・O・S 活動及び S・O・S 支援活動システムの検証

事業項目	日程	具体的な活動内容
企画の募集要項の作成	4月	2007年度 学生相互支援企画募集要項の確定
企画の募集・審査等 成果報告会	5月	学生相互支援企画の募集・審査・採択 2006年度 学生相互支援企画の成果報告会
認定証の交付 リーダー会議	6月	S・O・Sプロジェクトチームの学生に対する認定証の交付 新規採択企画（プロジェクト）のファシリテート
リーダー会議	7月	活動報告・意見交換・ファシリテート
学生研修会	9月	チーム・ビルディングに関する研修会
企画の募集・審査等	10月	学生相互支援企画の追加募集・審査・採択
認定証の交付	11月	S・O・Sプロジェクトチームの学生に対する認定証の交付
プレゼンフェスタ準備	12月	プレゼンフェスタ2008の企画・立案
プレゼンフェスタ案内 リーダー会議	1月	プログラム＆案内（お知らせ）の作成・配布 活動報告・意見交換・ファシリテート
プレゼンフェスタ開催	2月	プレゼンフェスタ2008の企画・立案
2007年度の総括	3月	S・O・S支援部会活動のまとめ

PLAN 3

Coordinated education

高大連携教育部会　部会長：上田健作

高知県高大連携教育実行委員会で合意した（1）連携授業プロジェクトの実施・評価、（2）教育プログラム開発プロジェクトの実施・評価、（3）高校生プレゼンフェスタの開催、（4）課題探求型授業研究会の開催、（5）高知県高大連携教育実行委員会の実施、以上を通じて高知県高大連携教育実行委員会が目指す目標の達成に努力する。

事業項目	日　程	具体的な活動内容
連携教育事業	通年 通年 7月～2月	①自然科学概論（SPP）（主管校：高知西高校　理学部）継続事業 ②理学基礎実験（SPP）（主管校：高知南高校　理学部）継続事業 ③クリエイティブシンキング（主管校：高知西高校　人文学部）継続事業
教育プログラム開発事業	通年 通年 通年 通年	①高知丸の内高校（人文学部・農学部）継続事業 ・「学びを創る」（1学期）（総合教育センター共通教育授業） ・「自律創造学習」（2学期）（総合教育センター共通教育授業） ・「地震と活断層」（理学部授業） ・「防災科学」（理学部授業） ・アグリベーシック（農学部授業） ②大方高校（総合教育センター大学教育創造部門）　継続事業 自律創造型地域課題解決学習プログラムの開発・試行 ③四万十高校（黒潮圏海洋科学研究科・総合教育センター大学教育創造部門） 「土佐の海の環境学Ⅰ・Ⅱ」（講義と柏島での演習）　新規事業 ※NPO 法人黒潮実感センターとの地域連携授業でもある。 ④春野高校（農学部）　継続事業
高校生プレゼンフェスタ	11月～2月	高校生プレゼンフェスタの企画及び実施
課題探求型授業研究会	7月～8月	高校教員・大学教員による研究会の実施
高知県高連携 教育実行委員会	2月	委員会の実施（連携授業プロジェクト、教育プログラム開発プロジェクトの報告・評価。 新規連携事業の検討、その他県教委との協議事項） ※必要のある場合は、臨時に委員会を開催することがある。

PLAN 4

Education and class evaluations

教育・授業評価部会　部会長：立川　明

■ 各種アンケートの検討について

18年度に引き続き、アンケートフォーマットの検討を行う。各学部および共通教育委員会の学生委員と協力し、学生の視点を入れた授業評価アンケート、科目配置アンケートについて項目や実施方法、フィードバックについての検討を行う。また、インターンシップ協力団体、受け入れ企業およびインターンシップ経験学生と協力して大学の教育評価、企業アンケートのフォーマット検討を行う。

■ 志望動機調査の実施

志望動機調査は昨年通り実施する。入試機構、各学部および学生委員会と協力して改善の検討を行う。

■ 導入教育に関するアンケート調査

大学生活導入教育アンケート調査は、各学部に対して実施の依頼を行う。今後の調査方法、調査項目等については、引き続き、学生委員会、インターンシップ協力団体等の意見を参考にしながら検討する。

事業項目	日　程	具体的な活動内容
各種アンケートフォーマットの検討	1学期 1学期 通　年	学生委員会委員を交えたフォーマットの検討 アンケート実施方法の検討 アンケートフォーマットに関する企業ヒアリング
新入生志望動機調査	4月中旬 1学期	新入生へのアンケート一斉調査 調査項目の検討、入試実施機構、学部へのヒアリング、学生委員会委員を交えた検討
成績評価に関するＦＤの検討	1学期 通　年	他大学の状況調査、ヒアリング調査 学生委員会委員を交えた検討
導入教育アンケート	1学期 通　年	各学部に実施協力要請 調査項目および調査方法に関する検討

PLAN 5

FD project and execution

FD 企画・実施部会　部会長：塩崎俊彦

■ 新任教員（2006年度以降採用）FD 開催
■ 全学 FD 開催
■「高知大学教育研究論集」編集・発行
■ 上記を推進するための「部会」の組織と会議開催・視察出張

事業項目	日 程	具体的な活動内容
新任教員FD	9 月	2006年度新任教員で、前回 FD（2006/9）に参加しなかった者と 2007年度新任教員を対象に実施。 医学部は別途に独自で実施するが、FD部会長や部会員がオブザーバー参加するなど、医学部と他4学部間で相互交流する。
全学FD	11月	学生・教員共同開催を試行。「FD週間」を検討。
高知大学教育研究論集	12月 3 月	全学に向けて投稿募集。 19年度末に発行。
先進大学視察および関連会議出席	通 年	FD先進大学視察およびFD関連の会議に出席。

PLAN 6

e-Learning

e-Learning 部会　部会長：立川　明

■ 電子化教材作成支援講習会の実施

昨年度の実施状況を見て必要な講習会を引き続き行う。

■ ALC ネットアカデミー説明会の実施

共通教育委員会に協力し、ALC ネットアカデミーの利用率向上のため、必要な措置を検討し実施する。管理者向け説明会、学生ユーザー向け説明会を実施する。

■ オンライン学習支援システム説明会

オンライン学習支援システムの拡充機能に関する操作説明会を実施する。要請があれば岡豊、物部の各キャンパスでも実施する。システムの利用率を上げるために、学生向け説明会、情報教育担当者説明会、機能の追加等必要な企画、実施、検討を行う。学部からの要請により随時説明会を開催する。農学部と協力して情報処理 II の授業 1 コマを情報活用能力の開発のため課題探求型授業形態で実施し、オンライン学習支援システムを活用し、効果的な使用方法を検討するとともに、改善の必要な点や追加の必要な機能を検討する。さらに学生委員会と協力して必要な機能について検討する。

■ シラバス改善に関する検討

電子化シラバスの利用率を上げるため、学生委員会と協力して利用者の視点からのフォーマットの見直しを行う。また、他のシステムとの連携等機能の追加について検討する。

事業項目	日　程	具体的な活動内容
電子化教材作成支援講習会	8 月初旬 2 月下旬	教員向け講習会夏休み連続セミナーの実施 教員向け講習会春休み連続セミナーの実施
ALC ネットアカデミー講習会	4 月12日 1　学　期	クラス管理者向け講習会の実施 学部の要請により教員向け講習会、学生向け講習会の実施、農学部と協力して情報処理教員および TA 向け講習
オンライン学習支援システム説明会	1　学　期 1　学　期 2　学　期	情報教育担当者向け説明会 学部の要請により教員向け講習会，学生向け講習会の実施 学生委員会委員と協力して機能追加の検討
シラバス改善に関する検討	1　学　期	学生委員会委員と協力してシラバスフォーマットおよび機能の追加について検討する

大学教育創造部門組織体制表

部門長：辻田　宏

教育プログラム開発部会

部会長　石筒　覚（人文学部／総合教育センター兼務）
委　員　辻田　宏（総合教育センター）
委　員　堤　敏広（総合教育センター）
委　員　内田　純一（教育学部）
委　員　岡本　達哉（理学部）
委　員　三木洋一郎（医学部）
委　員　大櫛　敦弘（人文学部／共通教育委員会選出）

S･O･S 支援部会

部会長　辻田　宏（総合教育センター）
委　員　堤　敏広（総合教育センター）
委　員　池田　啓実（人文学部／総合教育センター兼務）
委　員　上田　健作（人文学部／総合教育センター兼務）
委　員　中澤　純治（人文学部／総合教育センター兼務）
委　員　小島　郷子（教育学部）
委　員　赤松　直（教育学部）

高大連携教育部会

部会長　上田　健作（人文学部／総合教育センター兼務）
委　員　堤　敏広（総合教育センター）
委　員　岡谷　英明（教育学部）
委　員　藤原　滋樹（理学部）
委　員　谷　俊一（医学部）
委　員　永田　信治（農学部）

教育・授業評価部会

部会長　立川　明（総合教育センター）
委　員　塩崎　俊彦（総合教育センター）
委　員　青木　宏治（人文学部）
委　員　中野　俊幸（教育学部）
委　員　逸見　豊（理学部）
委　員　佐藤　純一（医学部）
委　員　伴　道一（農学部）
委　員　大石　達良（人文学部／共通教育委員会選出）

ＦＤ企画・実施部会

部会長　塩崎　俊彦（総合教育センター）
委　員　立川　明（総合教育センター）
委　員　鈴木　啓之（人文学部）
委　員　高柳　真人（教育学部）
委　員　島内　理恵（理学部）
委　員　野田　智洋（医学部）
委　員　川合　研兒（農学部）

e-Learning 部会

部会長　立川　明（総合教育センター）
委　員　塩崎　俊彦（総合教育センター）
委　員　遠山　茂樹（人文学部）
委　員　赤松　直（教育学部）
委　員　村上　英明（理学部）
委　員　栗原　幸男（医学部）
委　員　尾形　凡生（農学部）
委　員　斉藤　卓也（総合情報センター）
委　員　中村　亨（理学部／情報教育委員会選出）

塩崎 俊彦
（総合教育センター・教授）

4月より総合教育センター大学教育創造部門に着任しました塩崎俊彦です。

部門のなかでもＦＤと教育・授業評価にかかわる事柄を主に担当することとなります。すでに高知大学では大学教育に関するさまざまな取り組みが行われており、目をみはるばかりなのですが、微力ながらもそうした新しい時代の大学教育の創造のお手伝いができればと思っております。

ＦＤや授業評価については、現在ではその考え方が多くの大学人に浸透してきており、10年前いえ５年前と比べてもまさに隔世の感があるといえます。授業改善のアンケートなど、いまでは当たり前のことのようになっていますが、その間に教職員の方々のさまざまな努力があったことも見逃せません。変化は遅々として顕著にそれとはわからないのですが、大学にかかわる人々の意識は確実に新しい方向に向かっています。その歩みを止めぬよう、より着実なものとなるよう努力してまいりたいと存じます。

つねづね学生諸君には、「大学で学ぶことは、世の中や自分の身の周りの事柄をよい方向に転がしてくためのく知性＞である」ということを強調しています。われとわが身を振り返って、口ではそう言いながら、「批判のための批判」、「総論賛成各論反対」の弊に陥らぬよう心がけてまいりますので、宜しくご協力ご指導くださいますよう、お願いいたします。

ACTION 5

学生たちが自主的に行ったクリエイトな活動の紹介

「プレゼンフェスタ 2007 in おびさんロード帯屋町公園前！」

今年で６回目を迎えた「高知大学プレゼンフェスタ」は、2007年３月４日（土）に会場を初めて学外に移しての開催となった。

また今回は、平成18年度学生による「学生相互支援」採択チーム「六人漆脚」が、企画から実施までを担当した。

プレゼンフェスタ 2007 企画・運営メンバーより

BY チーム六人漆脚（ろくにんななきゃく）

プレゼンフェスタ2007では、リーダーをやらせてもらいましたが、本当紙上だけのリーダーでした。皆忘れているだろう、と思うくらい、一人ひとりの仕事を分担して、自分の仕事をしっかりしてくれました。

チームのみんなは、第二の家族みたいでした。私だけ学部が違うので、今では偶然でしか会いません。でも会った時は、「一緒に頑張ってやり通したね」「辛かったけど楽しかったね」っていう笑顔です。学部や学科が違っても、協力し合えば一つの企画ができるのです。自分は違う学部・学科だから……って言っていたら何も始まりません。私は自分がやり終えてそう思います。

理学部 物質科学科：南田　美佳（リーダー）

特に難しかったのは時間割の違いから皆で集まる時間を作ることでした。企画を考え、計画を立てることの難しさから、とても困った時もありました。でもやり遂げてみて思い出すのは、楽しかったことや達成感です。プレフェスで得られたことをこれからも活かしていきたいと思います。

人文学部 人間文化学科：石丸香穂理

プレゼンフェスタ初の学校を飛び出しての屋外実地！「どこにする？」「どこに許可取ればいいの？!」「３月って寒いやん！寒さ対策は？」「そもそもプレフェスの意義って？!」などなど……設立メンバーの６人で日々考えあぐねたものです。

成功も失敗も挑戦してみなければ味わうことができません。仮に失敗したとしても、そこで経験した失敗は無価値ではなく、自分が決めて取り組んだことに対する失敗なのですから、次に繋がる意味のある「気づき」ではないでしょうか。僕はこれからもこのスタンスで色んなことに挑戦し、学生生活で多くの気付きと経験を身に付けたいと思っています。

人文学部 社会経済学科：秋元　裕貴

Create Vol.5
Published June 2007 平成19年６月発行
発行
高知大学総合教育センター・大学教育創造部門
〒780-8520　高知市曙町２丁目５番１号　TEL（088）844-8652

■ 表紙写真：キャンドルナイト in 高知大学の様子。